

日本経営学会第74回大会予告…………… 1	特別委員会より…………… 4
日本経営学会第75回大会情報…………… 2	事務局より…………… 4
経営学会国際連合…………… 2	住所・所属機関等変更、訂正一覧…………… 4
「日本経営学会誌」投稿規定…………… 3	

日本経営学会第74回大会予告 2000.9.7~10 於：横浜市立大学

日本経営学会第74回大会は、統一論題「経営学の新世紀：経営学100年の回顧と展望」のもと、本年9月7日（木）～10日（日）横浜市立大学（瀬戸キャンパス）で開催されます。各部会からの推薦をもとにプログラム委員会にて検討させていただき、ご依頼した結果、統一論題報告者が下記の通り決まりました。予定討論者（6名）等は現在お願いしている過程にあります。ワークショップについては、現在2名の方から申し出があります。横浜市立大学では大会委員会が発足し、精力的に準備が進められています。（人名敬称略）

* 統一論題

9月8日（金）サブテーマ1-1
「20世紀と経営学、その軌跡と課題」
（報告者）加藤勝康・丹沢安治・吉田修

9月9日（土）サブテーマ1-2
「20世紀と経営学、その軌跡と課題
—日本経営学—」
（報告者）片岡信之・林正樹・三戸公

9月10日（日）サブテーマ2

「20世紀の企業経営と新世紀の展望」
（報告者）加藤志津子・下川浩一・吉森賢

* ワークショップ

「横浜の産業とベンチャー・ビジネス」
（企画者）佐々 徹

「IT革命と企業経営」（企画者）野々山隆幸

（第74回大会プログラム委員長 百田義治）

〔大会委員長から一言〕

第74回大会を横浜市立大学（横浜市金沢区、横浜市南部で京急横浜駅から約20分）で開催させていただくことになりました。会員数も少なく、施設も不備が目立ちますが、皆様の研究に役立つ大会にしたいと考えております。多くの会員のご参加を心から期待しています。

今年には2000年という20世紀最後の年です。ひとつの区切りの年ですが、20世紀の科学として発展してきた経営学にとっても、まさに生誕100年の記念すべき年になります。百田プログラム委員長をはじめとするプログラム委員会によって、この記念すべき年にふさわしい統一論題と報告者・討論者をきめていただきました。「20世紀と経営学、その軌跡と課題」、「20世紀の企業経営と新世紀の展望」は、会員共通のテーマであり、つぎの100年の出発点にしたいと考えております。

ワークショップも2つ用意いたしました。ひとつは、ベンチャー育成であり、もうひとつはIT（情報技術）革命の企業経営への影響に関するものです。いずれも現代的な経営課題であり、会員にアピールできるものになると思っています。

懇親会は、横浜の新名所・MM21地区にあるホテル・ニッコー（ランドマークタワーのあるところ）を考えています。大学の周辺にも、金沢八景島シーパラダイス、世界的にみても注目に値する金沢の産業団地などがあり、鎌倉にも近いところですが、是非とも横浜の新名所もアフター・コンベンションのひとつとして考えていただければと思っています。

ご迷惑をおかけすることもあると存じますが、何卒多くの会員のご参加をお願いいたします。

（大会委員長 齊藤毅憲）

日本経営学会第75回大会情報

日本経営学第75回大会は、2001年9月に桃山学院大学にて開催されますが、この大会に向けたプログラム委員会はすでに発足し、準備に着手しています（委員会メンバーなどについては『学会ニュース』NO.16参照）。

第1回の委員会は、去る2000年1月8日午後12時30分より大阪市立大学（文化交流センター）にて開催されました。ここでは理事の方々へのアンケート調査の結果を踏まえ、統一論題のあり方を中心に意見交換しました。そして75回大会の統一論題テーマを考える際に留意すべき事項としては「21世紀最初の大会である」「通算75回目の節目の大会である」「すでに72、73、74回大会で21世紀を睨んだテーマを設定している」「米独など諸外国での大会テーマの動向を考慮する」などの意見がだされ

ました。

また自由論題報告のあり方、ワークショップのあり方、報告や質問のあり方、などについても、学会活性化の方向で熱心な意見交換を行いました。

第2回の委員会は、2000年4月15日に龍谷大学にて開催（予定）し、統一論題テーマや柱立てについての「原案」をもとに検討する予定にしております。

プログラム委員会は、第75回大会のプログラム内容が、21世紀最初の大会として相応しいものになるように努力をしています。会員諸氏からの積極的なご意見・ご提言がございましたら、ぜひご連絡をいただきますようお願いしております。

（第75回大会プログラム委員長・渡辺峻）

経営学会国際連合（IFSAM）

1. ヘルシンキ理事会（1999年8月）において役員が次のように変わりました。

President : André Petit (Canada)

President Elect : Greg Bamber (Australia)

(Carolyn Dexterの逝去によるもの)

Secretary : Mike Hitt (United States of America)

(President Electの変更に伴うもの)

Tresure : Yvon Pesqueux (France)

2. 機関誌の発刊を検討しています。基本方針としては、各国の機関誌から代表的論文を選ぶという方式をとることが合意されました。より具体的な方法についてはモントリオール大会で検討されることになっています。

3. 第6回IFSAM世界大会は

2002年 オーストラリアのゴールド・コーストで行われることになりました。テーマは「Management in a Global Context : Prospects for the 21st Century」です。多数の参加を期待しています。

4. 第5回IFSAM世界大会は

University of Québec, at Montreal, 7月8日～11日、2000年で行われます。日本からは十数名が報告する予定です。日本経営学会会員の多数の皆様が参加されることを期待しています。

詳しい情報は、<http://asac-ifsam2000.uqam.ca>をご覧ください。

（国際関係担当常任理事 奥林康司）

「日本経営学会誌」投稿規定

- 1) 投稿者は原則として日本経営学会の会員とする。
- 2) 投稿原稿は日本経営学会の目的に則したテーマで日本語あるいは英語で書かれた未公開論文とする。
- 3) 掲載された論文の著作権は、日本経営学会に帰属する。
- 4) 本誌に掲載された論文を執筆者が他の出版物に転用する場合には、予め文書によって日本経営学会の了承を得なければならない。
- 5) 原稿は原則としてワープロによる横書きとする。掲載決定後に最終原稿のフロッピーの提出が求められる。
本文・注・図表・文献リストを含め、日本語の場合は20,000字以内（A4で40行×40字×12.5枚）、英語の場合は6,000語以内（A4でダブル・スペース）とする。
- 6) 図表は本文での挿入箇所を明示して原稿の終わりに入れる。図表は下記の要領で原稿字数に換算し、原則として合計で1ページ以内とする。
 - ・刷り上がり2分の1ページ大の図表：19行×44字＝836字
 - ・刷り上がり4分の1ページ大の図表：10行×44字＝440字
（タイトル1行と注記1行を含む）
- 7) 文献引用については、本文では（著者名と出版年）で表示し、原稿の終わりに文献目録をアルファベット順に表示するものとする。
- 8) 投稿原稿の表紙に投稿者の氏名、住所、所属機関、肩書を記入し、原稿自体には氏名など一切記入してはならない。
- 9) 投稿原稿には、キーワード5項目、原稿のコピー2部、論文要旨3部（日本文の場合：約1,600字、英文の場合約600語）を付けて提出する。
- 10) 投稿の締切は特に設けない。投稿された原稿、投稿時点以降最初に開かれる編集委員会で処理される。
- 11) 投稿原稿の採否は、編集委員会が委託する2名のレフリーの審査に基づき、編集委員会が決定する。
- 12) 投稿者は投稿原稿の不採用が決定される前に当該原稿を他の場所で公開してはならない。
- 13) 採用原稿の執筆者校正は初稿のみとし、校正時の原稿訂正は原則として認めない。
- 14) 原稿料は支払わない。ただし、30部の抜き刷りを無料で送付する。
- 15) 投稿原稿などは一切返却しない。
- 16) 投稿先は編集委員長とし、宛先は「学会ニュース」で知らせる。

投稿先 編集委員長 坂本 清

〒558 - 8585

大阪府大阪市住吉区杉本3 - 3 - 138

大阪市立大学商学部 坂本清研究室

「日本経営学会誌」第6号原稿募集について

第6号の原稿を募集しております。多数の応募を期待いたしております。